

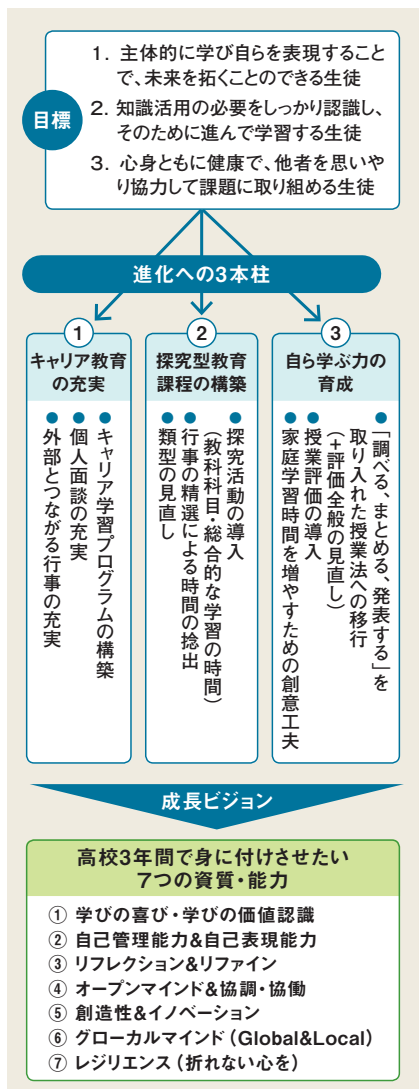
独立した組織で外部の教育力を徹底活用 既存の取り組みも見直しながらスピード改革

毎号1校ずつの高校にご登場いただき、進路指導の取り組みをご紹介します。
今回は伸び伸びとした校風で、素直で真面目な生徒を育ててきた北海道石狩南高校。
生徒たちが社会に出てからも輝き続けるために、自主性や意欲を育む教育に取り組み始めています。

取材・文／永井ミカ

石狩南高校（北海道・道立）

図1 将来も輝き続けるための改革のアウトライン



総合教育推進室室長
渡部 恵太先生 (中央)
教務部長
福島 洋一先生 (左)
3学年副主任
進路指導部
新保健年先生 (右)



新しい社会に適應できる 自主的な生徒を育てたい

北海道石狩南高校は石狩市と札幌市との市境近くに位置する中堅進学校。これまで進路指導において大きな課題はなかったものの、それがかえって問題ではという議論が浮上したのはここ数年のことだ。「大学とは「働く」とは「社会とは」などをもう少し突き詰めて送り出したい。高校での学びと将来のつながりを意識させ、生徒に響く進路指導を進めたい。素直でいい生徒たちだが、受け身で視野が狭いという悩みもある。社会環境が変化するなかで「このままではうちの生徒が社会で通用しなくなる時代がくるのでは」と危機感を感じる教員も

出てきた。
2015年4月、当時進路指導部長だった渡部恵太先生を中心に将来像構想委員会が立ち上がる。メンバーは進路指導部長、教務部長、学年主任、そして当時担任として直接進路指導に当たっていた福島洋一先生や新保健年先生ら有志の先生たち。「先進的ではないがスピード」と渡部恵太先生が言うとおり、アウトライン(図1)づくりと実践を同時進行で行ってきた。翌年には膨大な進路指導部の業務を整理するため部内にキャリア教育推進室を設置。この推進室を今年度の4月に独立させて総合教育推進室とし、「スタディサプリ」導入やICTの部分的導入も並行しながら改革を進めている。

School Data

1996年創立／普通科／生徒数949人(男子420人・女子529人)／進路状況(2017年3月実績) 大学進学186人、短大進学26人、専各進学77人、就職4人、その他16人

図2 3年間のキャリア学習・進路指導計画(主なものを抜粋)

	キャリア学習プログラム	進路指導
1学年	4~6月 宿泊研修(キャリア&学問発見タイム、適性診断)	進路集会、2年次科目選択 進路希望調査 個人面談週間
	7~9月 キャリア体験学習(校外) 職業インタビュー学習	夏期講習 進学相談会(校外)
	10~12月 夢ナビ 進学相談会参加体験	個人面談週間 冬期講習
	1~3月	進路集会、春期講習
2学年	4~6月 出前講義	進路集会、3年次科目選択 進路希望調査 個人面談週間
	7~9月 オープンキャンパス 参加体験(校外)	夏期講習 進学相談会(校外)
	10~12月 カタリバ 進学相談会参加体験	個人面談週間 冬期講習
	1~3月 石狩南高校版 「小論文テスト」2年生用	進路集会 合宿学習 春期講習
	4~6月 ふれあい看護体験(校外)	進路集会、進路希望調査 分野別進路集会 個人面談週間
3学年	7~9月 石狩南高校版「小論文テスト」3年生用 北大看護学生との交流	進学相談会(外部) センター試験出願指導、 小論文指導、面接指導
	10~12月	冬期講習
	1~3月	センター対策、2次対策講習

全体設計

外部の力の活用などで
スピードに全体を再構築

生徒に主体性をもってもらいたい。危機感から発足した将来像構想委員会が、進路指導分野で取り組んだのは、社会とつながる体験を増やし生徒に刺激を与え、価値観や行動の変化を促すこと。ただし、入念に計画を立ててからの実行では時代の変化に追いつけない。進路指導をキャリア教育ととらえ直し、スピード感をもってすぐに実践し、トライアンドエラーを重ねながらも全体を再構築していく必要があった。このため、インターシッピングを含むキャリア体験学習(校外)を1年次の入

り口とした。

スピードに取り組みのために主に4つの工夫をした。「工夫①外部組織や人材の積極活用」では、例えば現役の大学生と高校生がグループで語り合う「カタリバ」を導入。大学生を中心としたスタッフがプログラムごと高校に来てくれるため高校側の負担は少なくてすむ。「まずは周りの先生の協力を得る必要があります。一度試しにやらせてください」と言うのが常套句。カタリバのように外部の人と直に接する取り組みは、生徒が目に見えてイキイキするので先生方の理解も得やすいんです(渡部恵太先生)

【工夫②既存の取り組みをブラッシュアップ

アップしたものもある。職業インタビューはインタビューをしてレポートを書くところまでだったものを、各クラス内で発表も行うようにした。「本当は全体の発表までもつていきたかったのですが、クラス内、それもグループ内発表がやっとでした。それでも、小さな発表も積み重ねれば、他の取り組みとつながりあっていきます。今はまだ一つひとつの取り組みを手探りでやっているんですが、いずれはすべてが意味をもつて発表はそのための第1歩です」と新保先生は言う。同様にクリティカルシンキングも、従来の小論文指導をブラッシュアップしたものだ。

キャリア学習プログラム

ダウンロード可

取り組みを、主に生徒を外の世界に触れさせて刺激を与えるための「イベント参加型・短期課題実践型」と、考える学習を積み重ねる「中期的ステップアップ課題型」に分けて整理。それぞれに対しての「付けたい力」を明確にした。さらに今後、長期的な探究型学習を取り入れる予定。

クリティカルシンキングでは、「工夫③外部の教材も積極的に活用」している。教材の一部であるワークシート学習に少しずつ取り組んでいくことで、将来の志望理由書、小論文につなげていくことができる。外部教材の利用という点では、スタディサプリの「よのなか科」も同じ。ブレインストーミングやロールプレイング、ディベートを通じて正解が一つではない問題と向き合う講座は、刺激を与えたい、主体的に考えさせたいという同校のニーズに合った。外部教材を導入する際は1社に絞らず、複数を吟味し、それぞれの取り組みで最も良いと思うものを選んでいく。「よのなか科は素直な生徒たちにスッと浸透していくと思います。年度途中で無理に新しい取り組みを入れたりしながら試行的にやってきましたが、それらを来年以降も継続させるかどうかは、実は生徒の目が輝くかどうかなんです。科学的な根拠ではありませんが、本校の生徒たちにとっては大切なことですから(新保先生)

新しい取り組みを矢継ぎ早に導入できたのは、「工夫④独立した組織をつくり、従来の進路指導業務と分離させた」からという点もある。何をやるべきか、何なら省いてもよいかが見えてきたなかで、今後目指しているのは探究型の学習の導入だ。「言われたことだけをやるのではない、普段の生活の中からのいろいろな考え、普通のことを習慣づけた」と新保先生。そのためには教員も考えるための刺激を「与え続け」る必要がある、それを実現するために、教科や学校活動、部活動も含め、取り



校内研修の様子と、それによって生まれた意見の書かれた模造紙。出席できなかった教員にも内容を共有し、ことあるごとに活用しているという。

校内連携の強化

**ワールドカフェの手法で
教員の問題意識を可視化**

次々とキャリア教育を進めていくなかで、先生方から「育てたい生徒像が明文化されていないのに…」という声が上がった。そこで、放課後、教員の研修会を2回実施。将来像構想委員会が発足して1年半後の2016年11月、2回目にワールドカフェ方式を採用したところ、各グループから「失敗させる」「助けない」「旅」「体験」などのワードが出され、委員会の先生方は知識注入だけではない体験を重視したキャリア教育が受け入れられる土壌ができてきたことを実感したという。

保護者とつながる

**三位一体を目指して学校の
思いを保護者に伝える**

今年度2回目を開催した「ファザーズ・マザーズDAY」。各学年主催の保護者向け行事の参加者が年々減っていたため、関心を高め、連携を図ることが必要との判断から、推進室主導の全校行事に切り替え、企画・実行した。

日曜日に保護者に来校してもらい、午前中はPTA総会、午後は保護者向け進

このときに出席できなかった先生たちのために、意見を書き出した模造紙をすべて写真に撮ってポスター化。当日のアンケートへの記入もすべてまとめ直してプリントアウトし、翌日、全教員に配ったという。「その後も別の研修会で貼り出ししたり、何かと活用しながら校内連携の強化を図っています」（福島先生）



中心にさまざまな人に情報を発信するための「Kari times」。学校ホームページからも読むことができる。

路別受験ガイダンス、学年別懇談会を実施。昼はPTAが無料軽食を用意した。生徒も午前中は生徒総会などを行い、午後の進路別ガイダンスに出席もできる。

「保護者がいけば元気になる進路情報を目玉にして来校していただき、生徒、保護者、学校が三位一体となることを目指しています」と渡部恵太先生。進路別受験ガイダンスでは理系、文系、医療系、専門学校、海外など9分野に分かれ外部講師が話をするが、例えば、文系大学受験「首都圏私大で学ぶ意義」東京で学ぶこと・文系学部の価値」といった講座もある。

「首都圏の大学を無理に勧めるわけはありません。生徒と同じように、保護者にも刺激を感じてもらいたいんです。事実、このガイダンスを聞くまで札幌以外の大学、ましてや東京に子どもを出すことなんて考えたこともなかった。今後はそれも検討したい。視野が広がったという保護者の方もいらっしゃいました。生徒へ刺激を与えながら、保護者への意識付けも急務だと思っています」（渡部恵太先生）

同校では福島先生が中心となり「Kari times」というプリントを発行しているが、これも保護者が読むことを意識したものの。学校行事や部活動、進路・キャリア学習の紹介の他、定期テストで出題された「決まった解のない問に対して記述して答える問題」や、道外へ進学した卒業生の生活ぶりを紹介するなど、視野を広げよう工夫をしている。

石狩南高校の進路指導のスタンス

**自発力を生む刺激と
深く長く考え続ける力と**

本文中にも「育てたい生徒像が明文化されていない」とあるが、少なくとも「〇〇大学に〇人合格」ということを進路指導の目標にするのは違うという方向性は出ている。漠然とはしているが、それぞれがそれぞれの道で卒業後も輝き続けることが重要で、そのために自発的に知識を身に付け活用する力を付けてほしいと、先生方は考えている。

「自発力を生む刺激とはなんだろう。これさえあればよしという答えは出ていませんが、いろいろ試しています。生徒は楽しみながら、きつといろいろなことに気付いているのだと思います」（渡部恵太先生）

とにかく一斉にできることから始めたため、初年度の2015年の3年生にも「刺激」による効果があった。その年のセンター試験受験者数が過去最高になり、翌年もさらにそれを更新したという。

ただし、素直に吸収しすぎる危険性もある。だからこそ、次に取り入れたいのは深く長い期間にわたって取り組む「探究型のプログラム」。単発的な刺激だけに翻弄されず、常に考え続けることの重要性を訴えていきたいと思う。